

多文化フィールドスタディ(3・4年次)

— ベトナムでの調査を終えて —

<研修期間>

2017年8月16日～8月23日

<研修場所>

ベトナム ホーチミン市

【学生の報告書から(多文化コミュニケーション学科)】

「ベトナムを訪れる観光客への調査」

佐藤 未波



<調査方法>

ドンコイ通りとブイビエン通りを歩き、店の種類を調べる。ドンコイ通りとブイビエン通りで観光客に10問くらいのインタビュー(ベトナムに来た目的、どのくらいお金を使ったかなど)

<新たな気付き>

ドンコイ通りには観光目的で来ている日本人が多かったが、バックパッカー街と呼ばれるブイビエン通りにはバックパックを持った欧米人が多かった。またドンコイ通りにはブランド店が多いのに対し、ブイビエン通りは自営業のような店が多かった。

「なぜベトナムへ観光に来るのか？」

大野 萌子



<調査方法>

バックパッカーエリアとホテル周辺でそれぞれアンケート調査。質問項目は、穴埋め式と選択式を使用。それ以外にも必要な事はメモを取った。

<新たな気付き>

アンケートを断られ続け、上手くいかない日もありましたがみんな話合っって頑張りました。泊まっているエリアによって旅行の予算、滞在期間が大きく変わっていることに気がきました。

「ベトナムが観光地になったのはなぜか？」

長谷川 彩乃



<調査方法>

街にいる観光客と思われる人に、ベトナムへ訪問した目的や滞在期間などを尋ね、現地で働いている人にベトナムの魅力や観光客のマナーについてインタビューを行なった。

<新たな気付き>

初めて訪れる土地で知らない人に声をかけることに抵抗はありましたが、何日も続けているうちにためらいがなくなっていき、楽しさを覚えました。インタビューをすることでさらにベトナムへの興味が増えました。

「ホーチミンにいる観光客と現地で働く人」

藤吉 恵



＜調査方法＞

バックパッカーエリアと比較的整ったエリアの2つのエリアで観光客と現地で働く人にそれぞれインタビュー調査を行った。計80件前後。

＜新たな気付き＞

海外旅行をするにあたって、多くの人はその土地の料理を楽しんでいた。観光客にインタビューをするとたくさんを教えてくれたので、直接アンケートの内容に関係すること以外にも知識が増えた。

「ベトナムで観光調査」

百瀬 梨絵



＜調査方法＞

ベトナムに観光へ来た旅行客に対し、なぜベトナムへ来たのかをインタビュー形式で聞き取り調査。

＜新たな気付き＞

いろいろな国から観光客がやってきていましたが、特に記憶に残っているのが初めてのアジア圏への旅行でベトナムを選んでいる観光客が多かったことです。日本人も多くいて、ベトナムという国をこれまでより身近に感じることができました。

「ホーチミンに訪れる観光客は何が目的なのか」

廣田 あかり



＜調査方法＞

事前に作成したアンケートに基づき、ベトナムに来た目的、予算、ベトナムに対する印象の変化などを聞く。

＜新たな気付き＞

歴史的な建造物や戦争関連の施設などを訪れる人が多いのかと思っていたが、実際に聞いてみると、旅費の安さやベトナム料理、アジア周遊の「ついで」などで訪れる人が多かった。そして印象が変わったかという質問に関してはベトナム人の「人の良さ」を挙げる人が多かった。